

今月の 新刊紹介



実習指導を通して伝える看護 看護師を育てる人たちへ

著：吉田みつ子
発行：医学書院
定価：本体 2300 円＋税

患者さんの苦痛を直視できない、報告のときに緊張しすぎる……と、実習中の学生の気持ちは大きく揺さぶられる。同じく、指導する教員や臨床指導者も悩んでいる。しかしそれは、机上では学べない看護の価値や意味を学生に伝えるチャンス。リアルな実習場面から「実習指導とは何をする事なのか」に考えを巡らせる、「ナラティブな」実習指導の本。



おだん子×エリザベスの 急変フィジカル

著：志水太郎
発行：医学書院
定価：本体 2200 円＋税

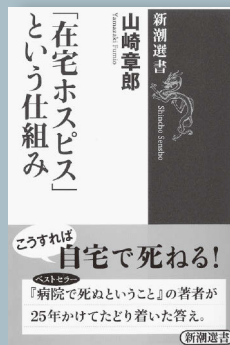
患者さんの急変を見逃さない！夜間や救急など、臨床現場で遭遇しやすい急変場面で使える、実践的なフィジカルアセスメントを、臨場感あふれる症例の中でわかりやすく解説する。身につけておきたい技術と、見逃さないでおきたい観察のポイントが、おだん子ちゃんの成長ストーリーを楽しみながら学べる 1 冊。



シリーズ ケアをひらく どもる体

著：伊藤亜紗
発行：医学書院
定価：本体 2000 円＋税

何かしゃべろうとすると最初の言葉を繰り返してしまう（＝「連発」という名のバグ）。それを避けようと言葉自体が出なくなる（＝「難発」という名のフリーズ）。吃音とは、言葉が肉体に拒否されている状態です。従来の医学的・心理的アプローチとはまったく違う視点から、徹底した観察とインタビューで吃音という「謎」に迫った画期的身体論！



「在宅ホスピス」という仕組み

著：山崎章郎
発行：新潮社
定価：本体 1300 円＋税

団塊の世代が 75 歳を超える 2025 年には年間 100 万人の介護者と 150 万人の病死者が日常となる。病院のベッドは不足し、「死に場所難民時代」がやって来る。自宅で最期を迎えることが当たり前になる時、本人と家族は何を知っておくべきか。終末期医療の第一人者による、慣れ親しんだ場所で尊厳ある死を迎えるための教科書。



看護を教える人のための 経験型実習教育ワークブック

編集：安酸史子／北川明
発行：医学書院
定価：本体 2700 円＋税

臨地実習ケーススタディの決定版。初めてづくしの体験に緊張し、不安を抱える学生を支援するために、どのように関わることが効果的か。本書は、看護を教える人が経験型実習教育に基づいて研修（ワーク）することができる、教育現場でコモンな 28 の事例を収載した。さまざまな経験を土台に羽ばたいていく学習者たちの支えとなるワークブック。



看護師の倫理調整力 専門看護師の実践に学ぶ

編：鶴若麻理／長瀬雅子
発行：日本看護協会出版会
定価：本体 1600 円＋税

臨床現場にあふれる倫理的課題に看護師はどう対応すべきか。その考察の手がかりとして、専門看護師（CNS）の役割の 1 つである「倫理調整」に注目し、14 名の CNS の実践事例から倫理的課題の捉え方、思考プロセスやアプローチの仕方を探る。意思決定支援などの取り組みを通して、患者・家族をどう支えていくのか、多くの示唆を与える。